

7. 郷土に伝わるねがい

(1) 郷土の発展に努力した人々

- 富津市の産業や文化の発展のために努力した人には、どんな人がいたのでしょうか。
- 人々の努力により、生活はどのように変わったのでしょうか。

やってみよう

- 郷土の産業や文化の発展のために努力した人には、どんな人がいたのか調べてみましょう。
- 人々の努力により、生活はどのように変わったのか調べてみましょう。

調べ方

- お年よりや昔のことを調べている人に聞く。○公民館や図書館で調べる。
- 記念ひや、あと地を見て調べる。

きょう土の発展につくした人々

富津市

- ① **平野武治郎** (ひらのぶじろう) のりの養殖を広める。
- ② 砂を防ぐために松を植える (貴布祢神社付近)
- ③ **金物屋茂兵衛** (かなものやもへえ) 「関山用水」を作る。
- ④ **三枝俊徳** (さえぐししゅんとく) 新しい医療を普及する。
- ⑤ **鹿子常英** (かのこつねふさ) 堰を作る。
- ⑥ **井上宗端** (いのうえそうたん) 新しい医療を普及する。
- ⑦ 「石山湖」を作る
- ⑧ **諸岡太左衛門** (もろおかたざえもん) 農民のくらしを守る。

調べたことをまとめて紹介し合おう

郷土の発展に努力した人について調べて、まとめましょう。まとめたことを友達に紹介しましょう。

【まとめ方の例】

〈新聞にまとめる〉

のりの養殖に努力した ひらのぶじろう 平野 武治郎	
<ul style="list-style-type: none"> ・大堀に住んでいた ・今から140年ほど前の話 	
人々が困っていたこと	
<hr/> <hr/> <hr/>	
努力したこと	
<hr/> <hr/> <hr/>	
今の様子	感想
<hr/> <hr/> <hr/>	<hr/> <hr/> <hr/>

〈タブレットでまとめる〉



【まとめ方のポイント】

- ・関係する肖像画や写真、記念碑の写真やイラストをのせよう。
- ・様々な工夫や努力をまとめよう。
- ・調べて思ったことを書こう。

のりの^{ようしよく}養殖に努力した^{ひらのぶじろう}平野武治郎

この地方は昔、「上総^{かずさ}の国」とよばれ、のりづくりがさかんでした。そこで富津ののりは、「上総のり」ともよばれていました。

今でもたくさんののりがつくられ、千葉県^{せいさんりょう}の生産量の約8割が富津市でつくられています。

のりの養殖は、江戸時代後期(1821年)に、近江屋^{おおみやじんべえ}甚兵衛により、小糸川^{こいと}河口^{かこう}で始められました。しかし、このころはのりでくらしが出来るほど多くはとれませんでした。

明治時代の始め、大堀^{おおほり}に住む平野武治郎という人が「のりひび」をたてる場所^{うつ}を移しかえることで、のりがたくさんとれることを発見しました。



① 平野武治郎氏

養殖

人が育ててふやすこと。

のりひび

のりを育てるための木のえだや竹のこと。



「富津市埋立記念館」^{うめたてきねんかん}

住所：富津市新井字浜 932-3

電話：0439-87-9740

開館：AM9:00～PM5:00

※月曜・祝日・年末年始は休館

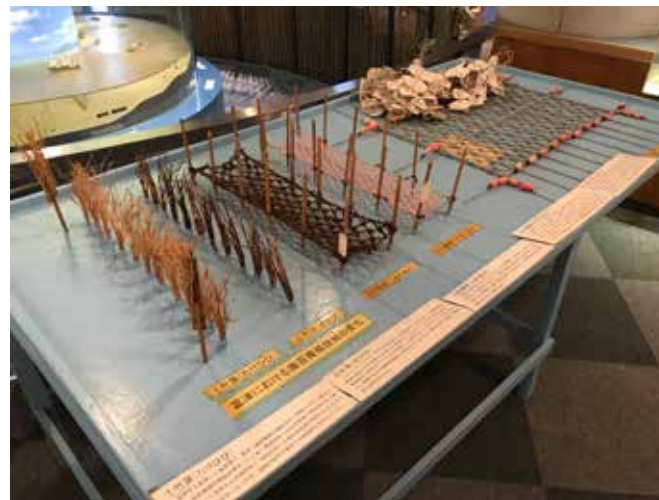
富津市ののりづくりの歴史や水産に関することを知ることができます。



② 入口にある平野武治郎の胸像



③ ④ のりの養殖の今と昔に関する資料がたくさん展示されています



のりをたくさんとるための工夫^{くふう}

明治時代^{めいじ}のはじめは、のりひびを海中にたてて、これに種^{たね}が付き、成長^{せいちょう}するのを待ってつみとるという方法がとられていました。

この方法は、その年の天候^{てんこう}に左右されやすく、のりがとれないときがあるなどして、少しのもうけしかあげられませんでした。そのため、のりの仕事をやめていく人がふえ、のりの養殖業^{ようしょく}は、すっかりおとろえてしまいました。

そのころ、武治郎^{ぶじろう}は、家の仕事をついで、のりの養殖と農業^{しお}や塩づくり^{しお}を行っていました。のりの仕事のおとろえぶりをなげき、「何とかしなくては」といろいろ工夫^{くふう}を重ねましたが、どれも失敗^{しっばい}に終わりました。

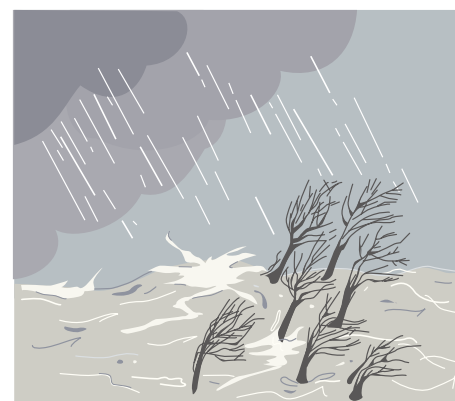


ある時、武治郎は、のりひびをたてる場所によってのりの種のつき方、色つや、育ち方などにちがいがあることを発見しました。

明治11年の秋、暴風^{ぼうふう}のために小糸川^{こいと}ふきんのひびが、ほとんど流れてしまい、他の場所からとってひびを補^{おぎな}いました。

しばらくして見に行くと、暴風前に、もともとたててあったのりひびには、のりの種はわずかなのに、移^{うつ}しかえたのりひびにはびっしりとついていました。

喜^{よろこ}んだ武治郎は、次の年ののりひびを移しかえてみました。すると、今度もまたとてもいいのりができました。

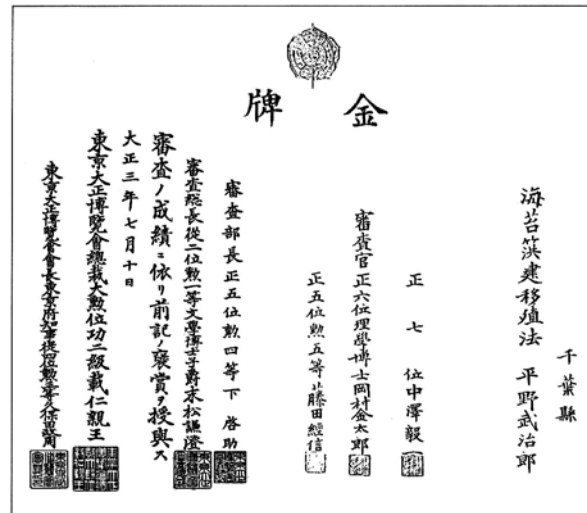
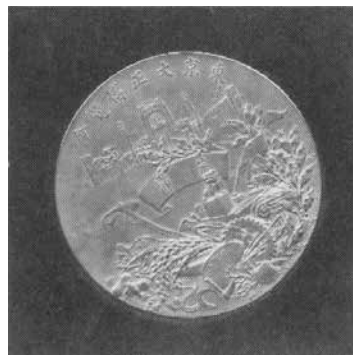


のりの養殖がさかんになったわけ

武治郎は、何年も試験をくりかえし行いました。そして、「のりひびを移しかえる方法（移植法）」が、のりの養殖に一番よいということがわかりました。

この方法がとり入れられると、のりがとれないということがほとんどなくなり、のりの養殖業をはじめの人が次第にふえていきました。

時代	年	おもなできごと
江戸	1821 (文政 4 年)	近江屋甚兵衛が小糸川河口の人見村でのり養殖を始める。
	1827 (文政 10 年)	大堀村でのり養殖が始まる。
	1829 (文政 12 年)	青木村でのり養殖が始まる。
	1842 (天保 12 年)	平野武治郎が生まれる。
	1843 (天保 14 年)	西川村・新井村でのり養殖が始まる。
明治	1878 (明治 11 年)	暴風でひびが流される。ひびを移しかえるとよいのりができることを武治郎が発見する。
	1879 (明治 12 年)	武治郎が 1 回目の移植法試験を行う。
	1880 (明治 13 年)	2 回目の移しかえ試験を行う。
		3 回目の移しかえ試験を行う。
	1881 (明治 14 年)	4 回目の移しかえ試験を行う。
	1882 (明治 15 年)	5 回目の移しかえ試験を行う。
	1883 (明治 16 年)	6 回目の移しかえ試験を行う。
1897 (明治 30 年)	第 2 回水産博覧会でのり養殖法が全国に紹介される。	
大正	1914 (大正 3 年)	大正博覧会で「のりひびたて移植法」が最高賞の金牌を受賞する。



① 平野武治郎が受賞した賞状と金牌

のりの養殖法がはじめて全国に知られたのは、明治30年の「第2回水産博覧会」です。

その後、大正3年には、東京で開かれた「大正博覧会」で「海苔築建移植法」として発表し、みごとに当時の最高の賞である「金牌」を受けることができました。

武治郎が「大正博覧会」で受賞したとき、千葉県は東京と広島について、全国第3位ののり生産県になっていました。

武治郎のぐう然の発見と5年間もかけて行った試験によって完成した「移植法」は、のり養殖業の発展に大きく役立ちました。



① のりの養殖場 (千葉県農林水産部水産局調べ)

みんなの願い「関山用水」

今から200年ほど前、鹿野山のふもとの佐貫一帯は日照りのため、田の水がなくなっていました。

人々はとてもこまり、「なんとかして田に水を引きたいものだ」と話し合いました。

その中の一人に、佐貫町の組頭であった金物屋茂兵衛という人がいました。茂兵衛は、みんなの願いをなんとかかなえたいと考え、みんなと相談しました。そこで、関山の水をあつめて、用水路を作って流すことを考えつきました。関山は、宝竜寺から奥に入った山の中で、いつもあちこちから山水がわき出ているのです。

関山から約8kmはなれた当時の大坪村（今の亀田地区）まで水を引くためには、いろいろな苦労や工夫がありました。



① 関山用水の記念碑



① 関山用水の通り道

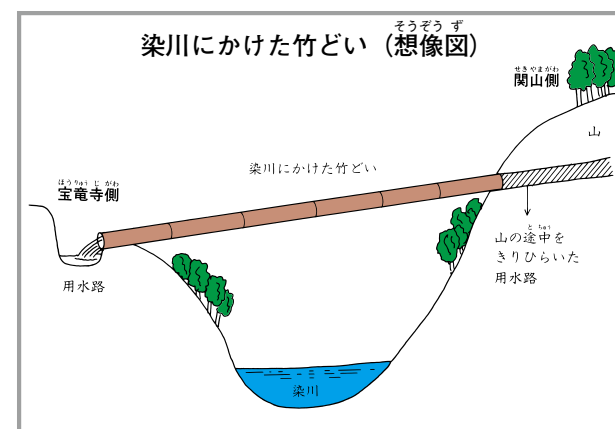
水を通すための工夫

水を遠くまで通すため、できるだけ高いところから流すことにしました。山の中腹に水路を掘る工事をしました。

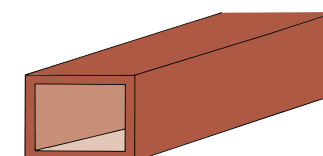
また、関山の入口にある染川という川のために、用水を通すための橋をかける必要がありました。

始めに考えたのは「竹どい」でした。長くて太い竹の中をくりぬいて水が通るようにした竹のつつを3本くらいのたばにしたものをつないで、川の上にかかけました。ためしてみると、水が流れました。ところが、「竹どい」はこわれやすく、水量も少ないので、こままってしまいました。

そこで、みんなで考え、長さ40mの木の「箱どい」に変えてみることにしました。「箱どい」の工事を終え、水を流すと、水は矢のようなはやさでいきおいよく流れました。みんなは、大喜びでした。

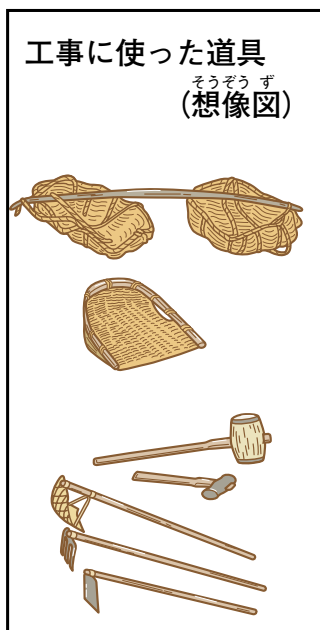


竹どいの想像図



木製の箱どいの想像図

水を通すための苦勞



用水路をほりすすんでいくと、またこまったことがありました。それは、佐貫城のそばをほらなければならぬことです。

城のそばをほることは、江戸時代ではゆるされることではありませんでした。城を変えたり、直したりするには、幕府のゆるしが必要で、かんとんには工事ができなかつたのです。ちょっとした失敗でも、藩主が交代させられることもありました。



① 佐貫城想像図 (これは想像図であり、実際の佐貫城には天守がありません)

みんなは、どうしたらいいのか、そうだんしました。そして、佐貫城の藩主に願書をもってたのみに行くことにしました。

3回目の願書を見た藩主の阿部正簡は、「百姓あつての阿部だ。百姓がなければ阿部もない。」

と言って、城の大手門のそば(今のごぼう谷入り口付近)に用水路をほることをゆるしました。

このおかげで茂兵衛たちは、用水路を完成させることができました。田にどんどん水を引くことができ、米づくりにたいへん役立ちました。

そのため、関山用水路は、「殿様おゆるしの用水」とか、「お城の大手の下を通る用水」とよばれ、村人たちは用水を大事に使いました。

願書

願書を書いた手紙。

大手門

城の正面にある門。



① 今も関山を流れる水

関山用水ができあがるまで

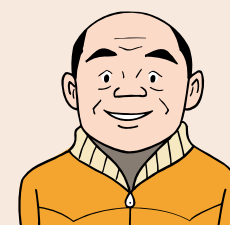
時代	年	おもなできごと
江戸	1814 (文化 11 年)	<ul style="list-style-type: none"> ・何日も日でりが続く。 ・村人は、米づくりの水が不足してこまる。 ・茂兵衛は、何度も関山の水源を見に行く。 ・村の代表者たちと茂兵衛とで、用水を引く計画を立て始める。
	1817 (文化 14 年)	<ul style="list-style-type: none"> ・工事のゆるしをえるために願書を役所に出しに行き、ことわられる。(1 回目)
	1818 (文政元年)	<ul style="list-style-type: none"> ・第 2 回目の願書を出し、また、ことわられる。
	1821 (文政 4 年)	<ul style="list-style-type: none"> ・第 3 回目の願書を出し、ようやく工事のゆるしがでる。
	1822 (文政 5 年)	<ul style="list-style-type: none"> ・工事にとりかかる。(1 月) ・工事が完成する。(5 月)

昔の人たちの願いをうけつぐ

関山用水はその後も、水の取り入れ口を直したり、水路のとちゅうをパイプにして地下にうめたり、コンクリートの水路にかえるなどの工事をして、今でもたくさんの人に利用されています。



① 今の関山用水取水口



関山用水水利組合長さんの話

げんざいの関山用水は、1 日約 8000 トンのわき水が出ます。この水を農業用水として 4 月 1 日から 8 月 31 日まで毎年利用しています。

水路そうじは、1 年に 1 ～ 2 回ずつ続けてきました。自然の恵み（わき水）を利用し、苦勞して米づくりのために用水路を作り出した茂兵衛さんたちに感謝しています。これからも、この用水を大切に使うよう努力したいと思います。